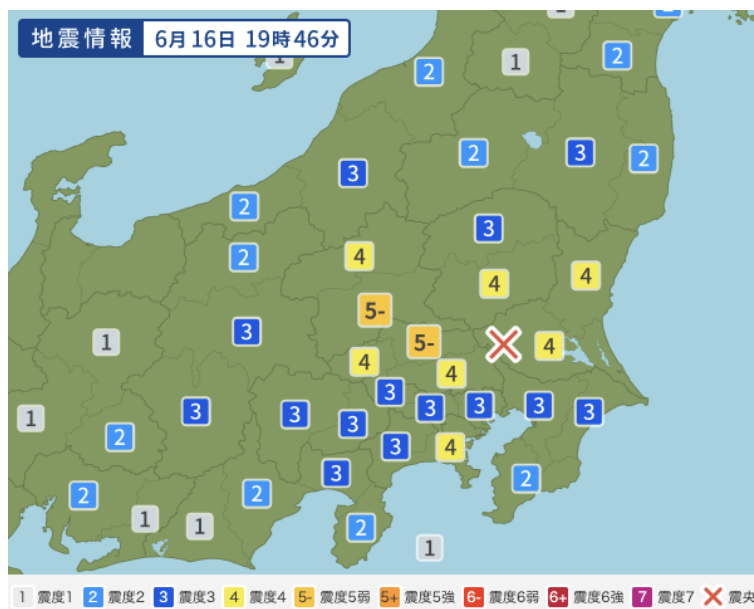


6月16日、茨城県南部の地震で震度5弱を観測

6月16日19時46分ごろ、茨城県南部でマグニチュード5.5の地震が発生しました。深さは暫定値で49.7kmと報告されています。

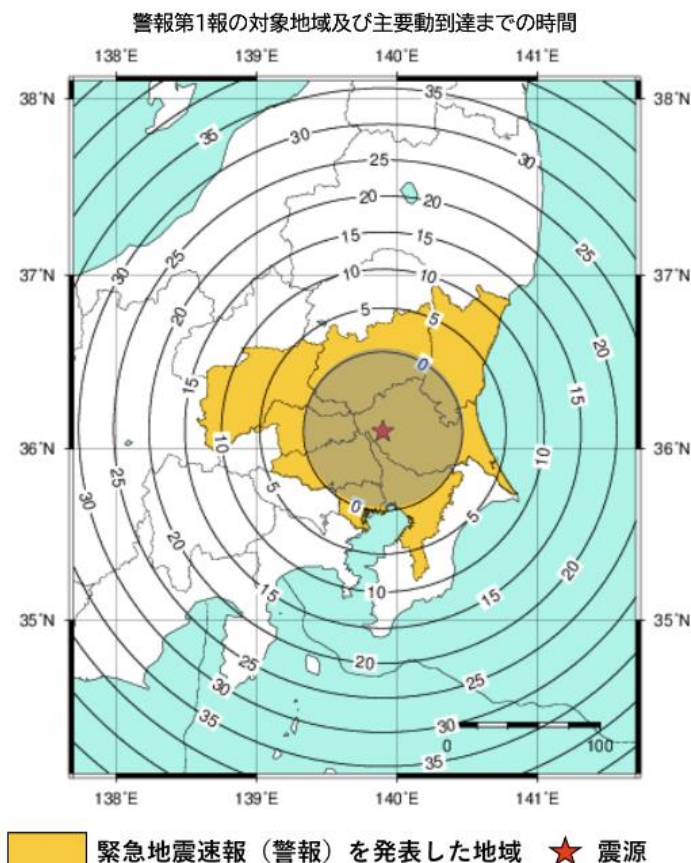
この地震で群馬県の太田市・千代田町、埼玉県に加須市・本庄市・美里町の合計5つの市町で震度5弱を観測したほか、東北地方から近畿地方にかけて震度4～1を観測しました。



関東地方にお住まいの皆様は久しぶりの緊急地震速報に驚かれたのではないのでしょうか。実はこの地震は緊急地震速報が比較的苦手な地震であったのです。関東地方のかなり広い範囲で、緊急地震速報が通知されたときにはすでに地震動は到着していたのです。

右の図は緊急地震速報の第一報が発令された時に、どれくらい時間的余裕があったかを示した図で、図中で0という円の内側では、揺れが到達してから速報が流れたという事を示しています。

緊急地震速報はあくまで地震が発生した事を(地表の)地震計で検知して、あとは地震波より圧倒的に速い電気的な方法(電波の力、ネットの力)で皆様にお伝えするものです。

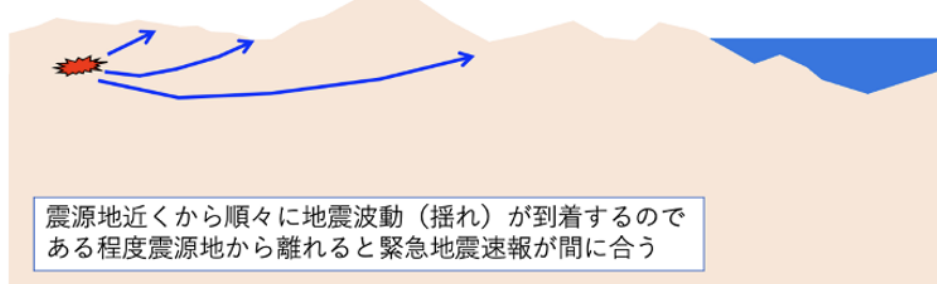




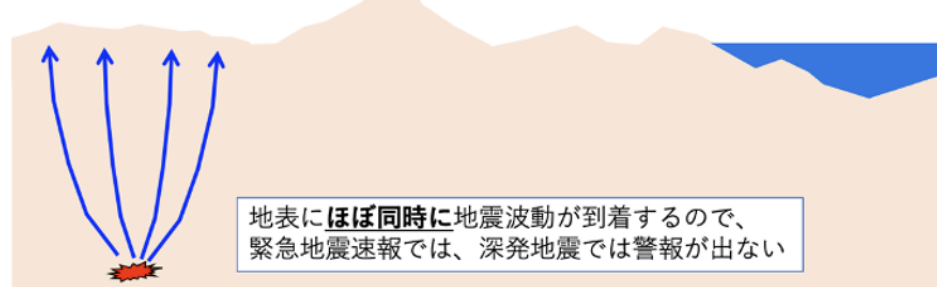
そのため、どうしても原理的に陸域で発生した地震では警報が間に合わない地域が出てきてしまいます。また多くの地震は深さ10キロから30キロ位で多く発生しますが、今回の地震の深さはおよそ50kmという深さでした。

そのため、次にお示しする図でおわかり頂けるかと思いますが、深いところで地震が発生しますと、地上の多くの地点にそれほど時間差無く揺れ(地震動)が到達してしまい、今回の地震のように速報が間に合わない広い地域が出現してしまうのです。

浅い所で発生した地震



深発地震



緊急地震速報は深いところ、かつ陸域で発生した地震が苦手

東海地方以西の地下天気図®

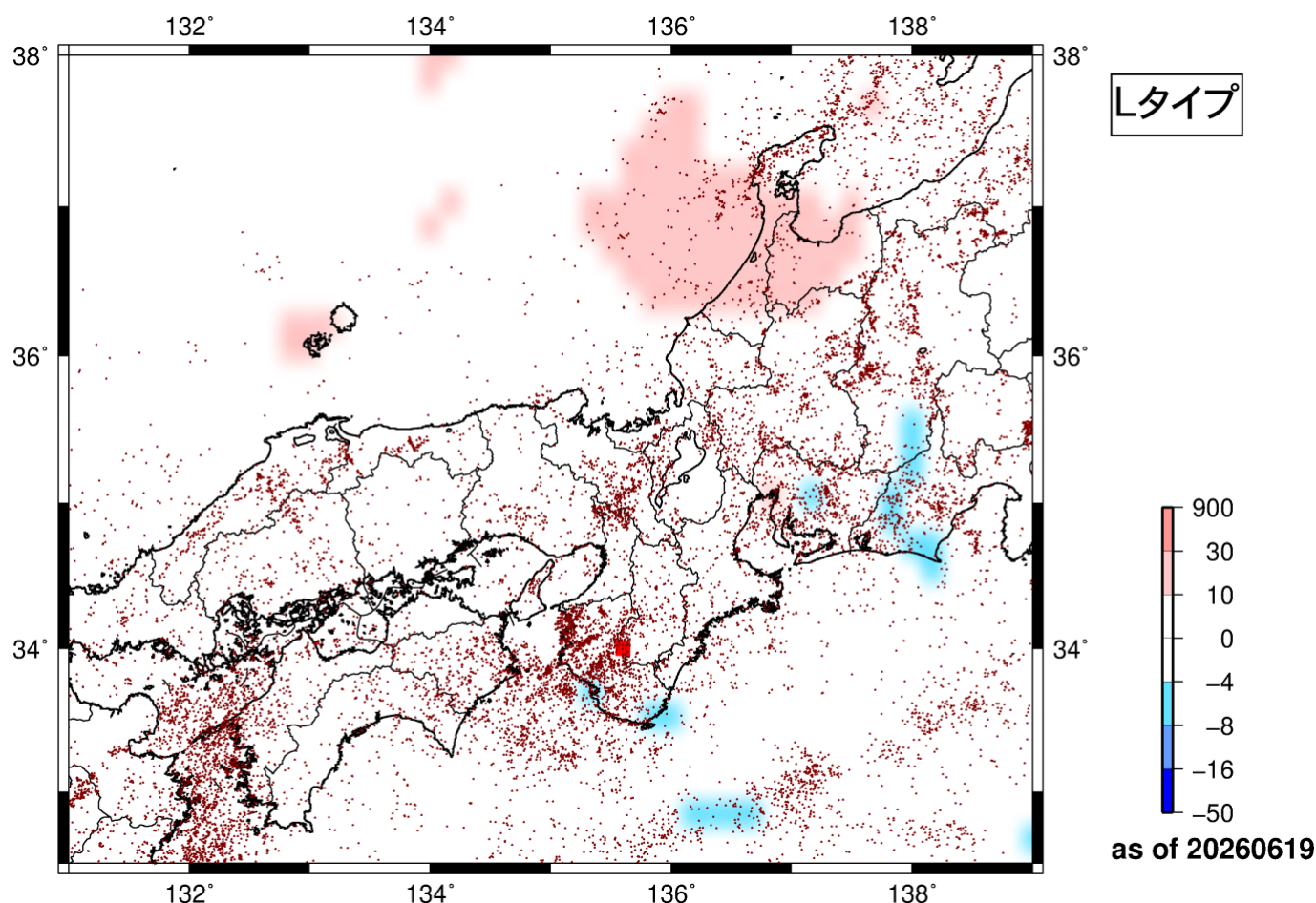
2026年5月11日のニュースレターに続き、今週は中部・近畿・中国・四国地方の解析です。

5月4日号で速報させて頂きましたが、5月2日18時28分ごろ、近畿地方で M5.8 の地震が発生しました。DuMA では紀伊半島で地震活動静穏化の異常が続いており、当該地域で M6クラスの地震発生の可能性が高い事をお伝えしてきました。この地震の発生により、長らく紀伊半島を中心に出現しておりました地震活動静穏化領域はほぼ解消いたしました。次のページの図は6月19日時点の L タイプ地下天気図です。

この地図内では、青く示される地震活動静穏化領域で大きなものは見られませんが、少し紀伊半島沖および静岡県を中心とする範囲では、(面積は小さいながらも)静穏化現象が認められています。

実は M タイプ地下天気図では、上記2つの地域の静穏化がそれなりに進んでおり、新しいフェーズに入った可能性も考えられる状況です。

現時点では DuMA では静岡県周辺と紀伊半島沖に注目している事をお知らせしたいと思います。



6月19日時点のLタイプ地下天気図